

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 78

2018/12/21/Wed

2学期終業式まであと4日

紀貫之、「土佐日記」の起筆 934年

メイ・フラワー号、アメリカ到着1620年

伊能忠敬、日本初の実地測量地図1800年

日本初のデパート「三越」開業1904年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

来年度の本校のニューリーダーは…？

どの立候補者も堂々とした演説を披露！ 生徒会役員選挙での「立会演説会」終わる！

生徒会役員選挙～立会演説会講評から～ 12/19(水)

… 早朝から選挙活動・挨拶運動を行っていた立候補者とその応援生徒、さらに給食時の応援演説と、東中らしく積極的な活動で素晴らしかったです。それだけに、この日の立会演説会はとても楽しみでした。「ぜひ演説会を聴きたい」と学校評議員の皆様も何名かお越しくださいました。

生徒会とは、生徒による自発的、自治的な組織です。自治=「誰かに言われてやるのではなく、自分たちの居場所となる場での生活をよりよくするため、楽しく充実した生活を送るため、どのようなことができるか？その方法をみんなで考えて、決まったらみんなで協力、そして実行していくこと」なのです。



↑会長立候補者

副会長立候補者↓



3年生役員の真剣な表情

各立候補者の演説を聞いて、本当によりよい学校を自分たちの手で作っていくんだという気持ち、気迫が感じられ、どの立候補者が役員になっても大丈夫だと感じました。

もちろん、演説のパフォーマンスだけを見て判断したのではなく、日常の学校生活や今までの活動をよく見て投票したことと信じていますが、皆さん、いかがでしょう。

ちなみに、各種議員・知事等を選ぶ選挙で、私は一度も投票を棄権をしたことはありません。それは「棄権は危険」だからです。私たちの選挙権は当たり前のようにあったわけではありません。悲惨な戦争、多くの犠牲の上に民主主義を勝ち取って初めて平等に与えられたのが選挙権なのです。

中学3年生は、3年後には投票権が得られます。私たち庶民の細やかな訴え、抵抗というものは選挙で1票を投じることしかできません。選挙を棄権してしまうことは、「この権利を放棄し、政治に私は口を出さないということ」「どうぞご自由にやりたいことやっ

て、税金も好きなだけ持って行ってくださいと丸投げすること」「権力者に文句は言いませんから、何をしてもかまわないということ」になりかねません。

いずれにせよ、結果が出たら新会長を中心に全員で一致協力してチーム東にしていってほしいと願っています。

今回の選挙の企画・運営など事務を、スムーズに進めてくれた選挙管理委員の皆さん、これまでの活動、たいへんお疲れ様でした。



よく頑張った選挙管理委員

生徒会役員選挙開票の結果…正副会長が決まる!

立会演説会 …選挙管理委員の五月女悠さん(3-3)の進行で、1年生は副会長立候補者10名、2年生は会長立候補者12名、計22名が演説を行いました。

各々が立候補した動機や今までの経歴、そして公約や生徒会への思いなどについて、時にはユーモアを交えながらの演説で、立候補者の個性が豊かに表現されていました。立候補者全員が自分の個性を生かした演説でした。

選挙管理委員長である松本妃加さん(3-1)が、投票についての諸注意を分かりやすく説明していました。ありがとうございました。

投票 …立会演説会后、各学年ごとの投票所へ向かい、スムーズに投票を済ませていました。誰に投票するか決めていた人がすぐに投票を済ませていましたが、投票の順番が来てもまだ迷っている人もいました。

でも、最後は自分の意思で判断して、投票をしていたようでした。

開票 …開票の結果、2年生からは、最高得票数で生徒会長に



副会長: 山口翔生さん・那花衣桜里さん

松本陽大朗さん(2-1)、次点で副会長に山口翔生さん(2-2)が当選しました。1年生からは、最高得票数の那花衣桜里さん(1-4)が副会長に当選しました。

この新正副会長3名を中心に本部役員が組織され、真岡東中の新しい生徒会がスタートします。期待しています!



会長: 松本陽大朗さん

「LGBT? セクマイ? って何?」- 人権教育集会 -

人権教育集会 12/18(火) …今回は全校生で人権について学習しました。

世の中には様々な人権問題があり、時代とともに新たな人権問題が生じることもあり、その一つであるLGBT(Q)・セクシャル(性的)マイノリティー(少数派)についてみんなで考える集会としました。



大学生の講師

今回は「宇都宮大学セクマイ研究会にじみや」の高柳風太さんと小川龍一さんを講師として招き、「ジェンダーって何? ~自分が好きならそれでいい~」の演題で講演していただきました。両者とも宇都宮大学3年生に在籍している現役の大学生です。各々が、幼少期からこれまでの生育歴などからの思い、友達関係、思春期での悩みなどを、パワーポイントを使って分かりやすく講演してくれました。この集会を通して、人権問題、特にLGBTに対する考えをより深め、友達も自分も大切にできる気持ち・違いを理解しようとする気持ちを持てるなど人権尊重の重要性に気付き、差別のない望ましい人間関係を確立できるようになれば幸いです。

さて、女優の東ちづるさんは、「Get in touch」という活動の中で「まぜこぜの社会を」というスローガンを掲げ、誰も排除しない・されない社会を目指しています。「私はワタシ over the rainbou」という映画も作ってLGBTへの理解を広げています。映画で当事者がシンプルに語る「なりたい自分になりたい。私は自由に、幸せに、自分らしく生きたいだけ」と…この思いはLGBTに限った話ではない! 人権そのものの話だ! と思います。皆さんは、どう思われるでしょうか。



真剣に耳を傾ける生徒たち